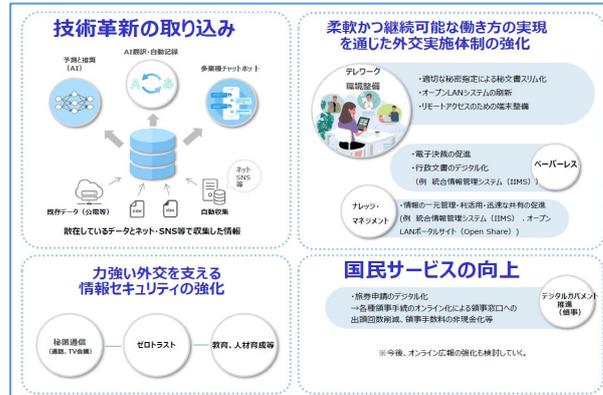


府省名	外務省	部署名	DX推進チーム
取組者	宮下 匡之 サイバーセキュリティ・情報化参事官 渡邊 滋 大臣官房情報通信課長 尾崎 壮太郎 大臣官房業務合理化推進室長 里見 京子 大臣官房業務合理化推進室 平出 光洋 大臣官房業務合理化推進室（情報通信課併任） 新井 信之 大臣官房情報通信課 美濃 咲希 大臣官房情報通信課（業務合理化推進室併任） DXサポートチーム（5名） 石田 春菜 総合外交政策局経済安全保障政策室 ほか若手有志タスクフォー ス（19名） 他		
取組のポイント			
<p>大臣官房情報通信課、業務合理化推進室及び若手有志タスクフォースを中心にDX推進チームを結成し、業務用ポータルサイト「Open Share」の開設、Teamsの導入を初めとする種々のDX施策を推進している。また、社会人経験者採用のIT人材で構成する「DXサポートチーム」が、本省や在外公館に勤務する職員からの様々な要望に応えるツールを作成・提供している。「業務合理化便り」（週刊メルマガ）や「DX日記」（短編動画）では、業務合理化のヒントやツールの使い方等を職員に発信し、職員のリテラシー向上に努めている。</p>			
取組概要			
<p>【取組の背景】 国際環境の変化はかつてないスピードで到来しつつあり、急速なデジタル化は、オンライン外交の活発化をもたらす一方、サイバー攻撃やフェイクニュースによる他国の選挙への干渉等、社会や国際関係（外交）に大きなインパクトをもたらしている。こうした中、日本が、自由で開かれた国際秩序の維持・強化を通じ、日本のみならず世界の平和と繁栄に貢献していくため、そして、政府の重要課題の一つである「行政のデジタル化」、業務合理化を通じた働き方改革と女性の更なる活躍推進、多様性の受容等を実現していくため、外務省として、DXを通じた業務合理化によって外交実施体制の強化を進めていくことが喫緊の課題となっている。</p>			
<p>【取組の内容】 業務改善推進本部長である事務次官から示された5年後の職務環境の「あるべき姿」を実現するため、DX推進チームを中心に、以下の4つの柱を重点項目とする取組を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 技術革新の取り込みによる業務効率化 ② 柔軟かつ継続可能な働き方の実現を通じた外交実施体制の強化 ③ 力強い外交力を支える情報セキュリティの強化 ④ 国民サービスの向上 <p>具体的には、①AI翻訳の導入、②テレワーク用モバイルパソコンの配布、ポータルサイト「Open Share」、Teams、Outlookメール等クラウドの活用促進、③ゼロトラスト・セキュリティ、④領事手続のオンライン化の推進等を実施している。</p> <p>また、「DXサポートチーム」は、例えばオンライン国会答弁用誤字・脱字チェックシステムなど、日々の業務で必要とされるツールを提供している。</p> <p>更に、省員のITリテラシー向上のために、種々の研修の実施に加え、「業務合理化便り」（週刊メルマガ）、「DX日記」（短編動画）等、業務合理化のヒントやツールの使い方などを、親しみやすい形で職員に発信している。</p>			
<p>【取組の成果】 （これまでポータルサイトはクローズド側にあったが）「Open Share」（情報共有プラットフォーム）</p>			

を開設したことで、自宅（テレワーク）はもちろんのこと世界中のどこからでも、インターネット経由で業務に有用な情報にアクセス可能となった。また、モバイル端末でクラウド化したメールと連動するTeamsの利用を可能としたことにより、リモートでも職場でもコミュニケーションの一層の円滑化に役立っている。このほか、「DXサポートチーム」は、例えば、インフルエンザ・ワクチン接種関連の集計ツールを提供し、従来8時間かかっていた業務を10分に短縮するなど成果を上げた。



講 評

部局を横断したチームで議論している点は、ワークライフバランスの基盤であるインクルージョン風土の醸成に資するものであり、評価できる。外部IT人材を活用したDXサポートチームの設置とその周知により業務効率化を求める職員の声に具体的な解決ツールをもって応えており、業務効率化の可能性を高めることが期待できる。Society5.0の「多様な人材×価値創造」を体現しているといえる。